

平成 30 年度 シラバス (半期 15 回授業用)

| | | | |
|-----------|---|------|--|
| 科目名 | ミクロ経済学 I | 科目分類 | ■専門科目群 (第 1 グループ) □総合科目群 (第 2 グループ) |
| | | | 経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択 |
| 英文表記 | Microeconomics I | 開講年次 | ■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年 |
| ふりがな | やまもと しゅん | 開講期間 | □前期■後期 □通年 □集中 |
| 担当者名 | 山本 俊 | 修得単位 | 2 単位 |
| 授業のテーマ | ミクロ経済学における消費理論及び市場の理論を中心に学習し、発展的な学習に必要な基盤を養成する。経済学的な合理性を理解し、経済学の視点を学ぶ。 | | |
| 授業概要 | ミクロ経済学 I では、消費理論を重点的に学習する。表面的理解だけでなく、諸理論の導出についても、丁寧に解説することで、到達水準を低下させないように心がける。 | | |
| 到達目標 | この授業では、ミクロ経済理論の学習を通じて「考える力」の向上を目指す。さらに、期末試験では、公務員の専門試験問題も出題するなど、基本的な受験力の向上も目指す。 | | |
| 授業時間外の学習 | 定期的に確認問題を配布するので、解答した後に提出して欲しい。 | | |
| 履修条件 | 入門経済学やマクロ経済学 I を履修済み、または同時に履修していることが望ましい。 | | |
| 授業計画 | 講義資料と教科書を併用して授業を進める。 | | |
| 第 1 回 | テーマ：ガイダンス ミクロ経済学の全体像 | | |
| 第 2 回 | テーマ：消費理論① 選択と予算制約。「予算で買える物の組み合わせを図示しよう」 | | |
| 第 3 回 | テーマ：消費理論② 選択と予算制約。「価格が変化すれば、予算の購買力も変化する？」 | | |
| 第 4 回 | テーマ：消費理論③ 消費者選好の諸仮定。「柿より梨が好きで、梨よりも苺が好き。でも苺より柿が好き？」 | | |
| 第 5 回 | テーマ：消費理論④ 消費者選好の諸仮定。「ビールだけ、焼き鳥だけでは満足できない。一緒に食べたい」 | | |
| 第 6 回 | テーマ：消費理論⑤ 無差別曲線の導出。「あなたのビールと私の焼き鳥 3 本を交換して下さい」 | | |
| 第 7 回 | テーマ：消費理論⑥ 限界代替率とその逓減。「ビールと焼き鳥の交換を続けると、その比率はどう変化するのか？」 | | |
| 第 8 回 | テーマ：消費理論⑦ 無差別曲線と効用関数。「無差別曲線は等高線！！」 | | |
| 第 9 回 | テーマ：消費理論⑧ 限界効用逓減の法則。「ビールは最初の一口が最も美味しい」 | | |
| 第 10 回 | テーマ：消費理論⑨ 最適消費ベクトルの満たすべき条件。「予算線と無差別曲線の接点が意味すること」 | | |
| 第 11 回 | テーマ：消費理論⑩ 加重限界効用均等の原則と需要関数。「何を買い足し、何を諦めるか？」 | | |
| 第 12 回 | テーマ：消費理論⑪ 代替効果と所得効果。「価格が変化すると最適消費ベクトルはどう変化するのか？」 | | |
| 第 13 回 | テーマ：消費理論⑫ 負の所得効果とギッフェン財。「価格が上がると、需要は増える？それは間違いか？」 | | |
| 第 14 回 | テーマ：市場と需要① 需要関数の詳しい説明。需要の決定要因は価格だけか？所得、好み、流行は無関係か？ | | |
| 第 15 回 | テーマ：市場と需要② 需要の価格弾力性。「売上増加には、値上げか？それとも値下げか？」 | | |
| 第 16 回 | 定期試験 | | |
| テキスト | 井堀利宏『入門ミクロ経済学 (第 2 版)』新世社、2010 年 | | |
| 参考文献・資料 | ロバート・ドーフマン『価格の理論』東洋経済、1965 年 (考え方が詳しい) | | |
| 成績評価の方法 | 期末試験 60%、課題 30%、コメントシート 10%の合計を基に評価する。 秀:90%以上、優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 確認問題を配布する。受講者は自らの理解度を確認するためにも必ず解答すること。 試験については努力が報われるような出題を心がける。 | | |
| オフィスアワー | 月・水・金曜日の 5 限をオフィスアワーとする。ただし、研究室に在室中は原則として質問に応じる。 | | |
| 学生へのメッセージ | ミクロ経済学はマクロ経済学とともに、経済学の基盤を形成している。ミクロ経済学を学ぶことで、我々の合理性を再認識し、自らの意思決定を見つめ直して欲しい。 | | |

